

# 長野市の最近の差別事象

## 「部落差別発言」

平成22年6月26日(土)午前9時頃、清掃センターにおいて以下のような部落差別発言がありました。

壮年男性が受け入れのできない家屋解体廃材を軽トラックに積んで来所したが、受け入れてもらえないことが分ると、受付職員に向かって「税金で食っているんだから・・・」と被差別部落住民やその出身者に対する差別語を大きめの声で3回言い、更に帰り際に同じ差別語を2回言い、走り去りました。

このケースは被差別部落住民やその出身者に対して差別語を用い、相手をさげすみ罵倒し、不満のはけ口にするといった状況で使用しています。被差別部落住民やその出身者に対する差別意識が明らかであり、重大な人権侵害にあたと受けとめています。主な問題点と背景は以下の2点です。

1点目、廃棄物を受け付けてもらえない腹いせとして、相手を罵倒するために、被差別部落住民やその出身者に対する差別語を引き合いに出して、ののしている点です。この背景として、いまだに部落差別意識が強く残っていることが伺えます。

2点目は、この発言には被差別部落住民やその出身者は「税金で食っている」という誤解と偏見があります。また、公務員に対してもさげすんだ見方をもっていることが伺えます。

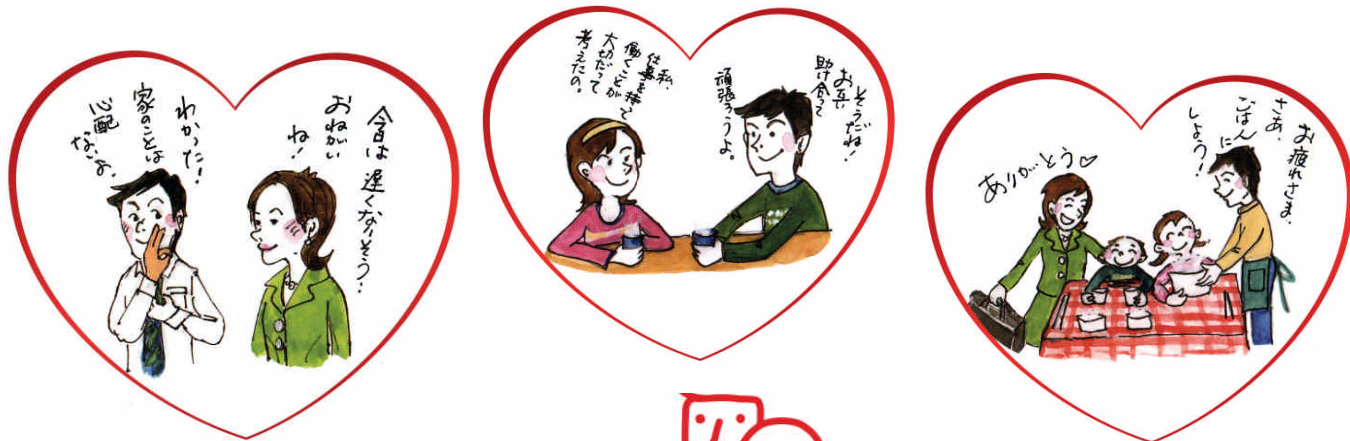
差別を許さない明るい地域社会を築いていくために、市職員や地区人権同和教育指導員等への研修会の中で、このケースを重点的に取り上げ、部落差別を許さない認識を更に高め、迅速かつ適切な実践行動がとれるように教育啓発活動を進めて参ります。地域住民の皆様にもご協力をお願いいたします。

(長野市人権同和政策課より)

## お互いを認め合う、そこから始まる — 男女共同参画への道 —

お互いの違いを認めあい、生かしあうためには、自分を素直に表現し、相手の話にも耳を傾け、お互いを理解し、その存在を認めあう・・・

そう、コミュニケーションをすることが大切です。



(男女共同参画意識啓発リーフレットより)